

第 33 回愛岐処分場専門家会議議事要旨

令和 8 年 1 月 27 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時 30 分
ヤマカまなびパーク (学習館) 視聴覚室

委員 埋立実績について、飛灰が 2,000t 弱と埋立量全体の 3 分の 1 くらいを占めている。飛灰は安定化処理をされているということだが、何年くらい安定なのか。徐々に劣化して、溶出するのか。どのような安定化処理をされているのか教えていただきたい。

飛灰にはいろいろな重金属が入っているが、量的にはそれ程多くないため、特に今すぐ問題になることはないと思うが、次回でも構わないので回答していただきたい。

事務局 後日、説明させていただく。

委員 処分場の残余容量について、このくらいの容量があり、このくらい減ってきているという経過、傾向が視覚的に見えるといい。

また、埋め立てているものの比重が記載されているといい。

事務局 比重を記載するようにする。

以前はごみの埋立量が多かった。過去 5 年間の埋立量の推移の表ではわからないため、一目でわかるよう昭和 57 年からの埋立量をグラフ等にする。

委員 環境モニタリング結果について、特に大きな問題はないと思う。

化学的酸素要求量が高い値となったことについては、雨が降っていないということでおそらく説明できると思う。大腸菌群数が高い値になったことについて、何かあったのかお伺いしたい。

事務局 大腸菌群数が高い値になったことについて、何があったかはよくわからないが、あの辺りは動物等がいるため、その糞尿の影響が出てしまったのかと思う。同じ日に測定した沢の結果を確認したが、全く値が違うため、処理水から何か出てきたという訳ではないことは確認できている。

委員 動物等がたまたま来た時にサンプリングしてしまったのかと思う。飲み水に使った訳ではないため、問題ないと思うが、来年測定し、何かあったときには指摘いただきたい。

座長 雨が降っていないときか、降った後なのかはわからない、降水量等のグラフがあれば、説明がしやすいと思う。

委員 令和8年度の環境モニタリング計画について、今回のモニタリング結果に特に問題がないため、今までどおり測定していただけるとよいと思う。

委員 観測井1の塩化物イオンについて、平成13年の流出事故の影響で高い値となっていたが、順調に下がってきている。観測数が平成19年度より増えている項目があると思うが、この変更された項目をどのくらいまで測定する予定か教えていただきたい。

事務局 以前の専門家会議の場でモニタリング調査の見直しをしてはどうかとご意見をいただき、見直しを進めていたが、令和6年3月に流出事故を起こしてしまったことと、今回、土壌の汚染が見つかったことから、測定数を減らすことについて慎重に検討している。見直しの案ができ次第、委員の皆様のご意見を伺いながら変更できればと考えている。

委員 以前測定数を減らしたいと提案されたときは、測定値がやや高めに出ていたため、かなり厳しい意見をしたが、適切なタイミングで見直しをしていただきたい。長期的な計画を作成いただき、来年か再来年、見せていただきたい。

委員 埋立が終了しても、施設がある限りモニタリング調査は続くため、超長期的な視点で、モニタリング調査のプランはあった方がいい。事故があれば変更になるかもしれないが、そういう視点が必要だと思う。

事務局 慎重に検討し、どのタイミングになるかわからないが、この会議の場で報告できればと思う。

委員 処分場はごみが出続ける限り必要な施設で、これから生活していく上でも、なくてはならない施設のため、埋立量が減っていくことはとてもいいことだが、コストがとてがかかっているという感じがしている。今後どうするかというのは、早めに議論していく必要があると感じる。

先日アフリカのマラウイの処分場を視察させていただいたが、そのままごみを埋め立てているだけの状態で、管理されていない。処分場の管理は生活に直結するし、危険なものが出る可能性があるということや管理のノウハウを途上国に伝えていくのも我々の役割と感じた。

委員 処分場はとても大事なものであって、なるべく延命化する工夫も必要と思っている。処分場で埋め立てているものはどのようなものなのか。埋め立てるものの密度を高め、減容化する技術もあると、よりしっかり埋立てられていいと思う。

委員 遮水工の素材は、どのくらいもつものなのか。こういう目的で作られるものなので、当時一番丈夫な材料で作られていると思うが、人工的な有機化合物のため、1000年もつようなものではないと思う。設計計画の時には何かあったはずなので、わかったら教えていただきたい。

座長 長期にもつという話もあったが、次回の会議等でまた教えていただきたい。

委員 処分場の危機管理体制について教えていただきたい。

事務局 浸出水処理施設については運営を委託しており、24時間業者さんが詰めている。土木建造物等については、一部の業者さんと協定を結び、震度6弱以上の場合は調査していただくような体制となっている。また、震度5強の場合は、職員が全員参集し、点検を行う。震度3、4の時は、出勤時に点検することとなっている。

委員 モニタリング結果について、特に問題なく、順調に推移していると理解しているが、将来どうかというのは非常に難しいことだと思う。一番問題となるのはおそらく重金属等であり、流出すれば問題だが、どういう元素が本当に漏れたら危ないかという話と関係すると思う。埋立終了後に安定した鉱物相を形成して、不溶化すれば問題ないため、不溶化がうまくいけばいいと思う。

重金属の入っている飛灰の不溶化がきちんとできていて、それが不溶化の効果が損なわれたりしなければ、ほぼ安全なのかなと思う。不溶化の対策でどこまで一時的に抑えられ、その後多少出たとしても、埋め立てているため、そこでまた吸着、保持されれば、重金属による汚染というのはおそらくないだろうと思う。測定回数については非常に多いと思っているため、十分なデータが蓄積され、変動が微小であることが確認された項目については、徐々に減らすのも一つの方向性だと思う。ゆっくりと検討していただければと思う。

委員 処分場の情報発信について、今の愛岐処分場を見た子供たちは、ごみが埋まっているのかどうか、わからないような気がする。今みたいに灰だけではなく、昔はプラスチックや不燃ごみそのまま埋められていたということもきちんと伝えていくことが、将来世代に対して必要だと思う。なぜ昔は不燃ごみ等を直接埋めていたが、今は灰が埋め立てられているのかというようなことを伝えられるような学習プログラムになっていることが非常に重要だと思う。

座長 本日、名古屋市の中学生がごみの話を聞きに来たため、副教材の話をしたが、誰も覚えていなかった。学校でどのように使うかという講習等が必要かと思った。

委員 愛岐処分場のホームページには施設の情報はあがるが、歴史についての情報が少ないと思う。埋立量の推移も、過去 5 年間だけではなく、埋立を開始した昭和 57 年からすべて掲載してほしい。そうすると、ごみ非常事態宣言後、いかに急激に減ったか等がわかる。また、昔はそのまま埋めていたが今は高度に処理をした上で、それでも埋めるしかないものを埋めている、という説明もあるとよい。何でも埋めるなんて昔はなんてことをしていたんだろうとか、土の中に埋めてしまったものについて未来の子孫たちはそれをどうすることもできないとか、色々考える機会になる。少なくともオープンデータとしてホームページでしっかり出してあげれば、中学生以上であれば調べて学校のレポートなどに活用できると思う。小学生向けであれば、動画も効果的だと思う。役所的なホームページではなく、数値と、デジタルネイティブな子供たちにも受け入れられやすい情報発信をすると、先生たちも使いやすい。紙のパンフレットは配って終わりになってしまい易いため、発信の仕方を時代に合わせて変えてほしい。

委員 例えばこの愛岐処分場を使って、名古屋市の環境政策の移り変わり等を見せられるようなものはどうか。環境政策をしている大学生や大学院生の方々に提案していただき、コンペをする等、何か工夫をすればもっといろいろな情報発信ができると思う。組織外の知恵を使って、何かいろいろできるのではないか。情報発信について、考え直した方がいいと思う。

座長 エコパルなごやが情報発信の新しい形になっていると思う。動画が結構紹介されているので、アクセスしやすいようにする方法もあると思う。

委員 4 年生の子供たちが見学して、自分たちが感じたことを次の世代、後輩たちにどう伝えるかというような質問等をして、ここでどんなことを学び、考えたのか、これから何をしたいか等、具体的な方法で、もっと子供たちが興味を示すような発信をすると、子供たちは一生懸命すると思うので、少し視点を変えて、いろいろ試してみてもいいと思う。

委員 歴史も大切ですが、今の子供たちにとっては「過去」よりも「将来どうなるか」という視点こそが重要です。例えばCO2削減や地球温暖化、エネルギー問題など、これから起きる社会変化の中で、処分場をどう位置づけるかが鍵となると思う。今後おそらく起きるだろう大災害のときに、ある程度高台とかこういうところに1つあれば、名古屋市じゃなくても海岸地域の方が結構いろいろ役に立つというようなこともあると思う。そういう将来の自然災害の中で、例えばこの愛岐処分場の役割はどうだというような、そうすると小学生も何となく思ってもらえるのかなと思う。愛岐処分場が今後必要なんだというようなことを、もう少し小学生の皆さんに伝える方が大事だと思う。その中で地球温暖化や今後のエネルギー問題等いろいろなことを含め、私たちの生活がどう変わるかという中で、処分場について話すのがいいと思う。

焼却工場のコンペがあったときに、施設の性能や能力ではなく、今後ごみが多くなるとどのような問題があるか等、今必要なことをもう少し伝えるような、そういう環境教育の方が大事だという話があったため、処分場も資源循環の最後の砦としての役割もあるが、もう少し違う視点でもう一度まとめられた方が、将来の小学生にとっては施設の重要性を認識してもらえるとと思った。

委員 可燃物を燃やすときに、処分場に埋めるスペースがあるからストーカー炉にする、処分場がなく、埋めるところがなければ熔融炉になるが、熔融炉だと最終処分量はなくなっても、熔融時にCO₂を大量排出する。結局、最終処分量に関わらず、リデュースが一番重要である。リデュース・リユース・リサイクルの上流のところできっちり対策をしないと、焼却工場か、処分場か、法律の緩い海外で埋められるかなど、結局どこかで辻褃合わせをしないといけない。そういう横の関連を含めた動画など、広い視野でごみについて知ることのできるサイトを名古屋市として作って頂き、その一つに愛岐処分場が入っていると良いと思う。

事務局 ごみ減量の出発点が埋め立ての課題であり、ごみ非常事態をきっかけにここまで取り組んできたが、30年近く経つと、そういった記憶も薄れてきてしまっているということをご心配いただいたと思う。処分場の重要性をどう伝えていくか。今いただいた話は、環境局全体のテーマであり、まず最初にごみ減量が大前提で、ストーカー炉にするか熔融炉にするかという判断はあるが、ごみ減量を飛ばして、処理できればいいという話ではない。きちんと発信し、伝えていかなければならない。その一つがごみと資源と私たちという副教材である。今回いただいたご意見は、局全体で共有させていただきたいと思う。

委員 土壌汚染について、原因はわからないということになると思うが、今回、特定の場所だけで検出されているが、なぜそうなったかという原因が何かあるのか、全く見当たらないのか、どちらか。

事務局 原因の特定は難しいと思っている。検出されたのは水処理施設があった場所だが、もともとは山林だったため、処分場以前の土地利用の時から、土壌の汚染になるような原因があったとは考えられない。今回も、建物の中ではなく、外で検出されたということ、隣接区画でも検出されず、飛び飛びで検出されたということ、また、検出された値が、基準値は超えているが、最大で3倍であるということから、断定はできないが、愛岐処分場の活動の結果、汚染物質が徐々にしみ込んだというのは考えられないという見解である。

委員 検出された地点の隣の区画は、多少高めに検出されたのか、検出された地点だけが高かったのか、そのあたりはどうか。

事務局 詳細なデータが手元にないが、特定の場所のみで高い値が検出され、少し離れたところから少し高めに出了とか、隣接するスポットで高めに出了とか、そういうこともなかったと思う。

委員 2倍3倍と濃度も低いため、それ程危ない訳ではないと思う。重大な事故でもなく、特定の原因があれば注意が必要だが、今回、原因がよくわからない。分析ミスではないか。

事務局 調査は専門の第三者機関で行った。

委員 再測定しても検出されたのか。

事務局 最初、隣接してカドミウムとフッ素が検出された2地点を含んだ30mの区画で測定し、基準値を超える値が出たため、その区画に関して10m区画に分け、2か所で再度分析した。2か所に分けて分析したところ、やはり基準値を超える値が検出されたため、測定ミスの可能性はないと思っている。

委員 汚染物質への対応は適正な処理か。基準適合土壌の中に埋めるということだが、その間にビニール等もなく、そのまま直に埋め、飛散を防ぐためにアスファルトで固めるというのは、適正なのか。雨が降るとどんどん浸透していく。定期的にモニタリングをすると記載されているため、してくださると思うが、どのくらいのスパンでするのかお聞きしたい。

事務局 仮に汚染された土壌を処分場から出す場合は、県等と協議しながら手続きをする必要があるが、今回は水処理施設の後の利用方法が決まっていないため、表面をアスファルトで覆うという方針で対応する。今後、土地の利用方針が決まった場合や、再度土を掘ることになった場合は、また改めて適正な処理をすることになると考えている。

事務局 今回汚染物質が見つかったところよりもさらに深いところまでボーリング調査を実施し、地下水が流れていないことを確認しているため、地下水によって流れ出ていくことは考えられないと思っている。

委員 土壌汚染が発覚した時、専門家会議を開くかは多治見市と協議して判断すればいいと思うが、最終的な意見や結果、方針を出す前に、委員の皆さんに諮る、確認すべきではないか。

事務局 その時点での名古屋市の考え方をお示しさせていただいた。確定したような形のメールになってしまったのは申し訳なく思っている。

委員 その時点での名古屋市の考え方が公表されたのかのようなメールだったので、それはよくないと思う。すぐに公表することはいいことだと思うが、今回報告をしていただいて、いろいろな意見が出た。委員の皆さんに報告した上で、最終的に確定するというようにきちんとしていただければと思う。

委員 本日報道発表を行い「ました」、というメールをいただいたので、そのような印象を与えたのだと思う。今回は緊急の案件ではないと判断したのかもしれないが、報道などに公表する前に、専門家会議の委員に知らせて意見を言えるようにしていただけると、我々の信頼関係が保てると思う。土壌汚染については、おそらく地質由来のもので運用上の問題はなかったと思っているが、発表の仕方やタイミングは問題だと思った。